



門加
566
卷 2

倭字古今通例全書卷二

自仁至遠



仁

仁變に之又耳變り變り又又變り
又爾變介變小變よ變り

乾坤

に

虹

作蜺同又霓性理大全朱子曰蜺煉
本只是薄雨為日所照成影

に

日和

古語拾遺ニ又言塵集ニ云海面ノ事ニト
又ひよりトヨム唯風波ノ静ナル

に

燎

庭火ノ節會及
神樂ノ時有之

に

驟雨

急雨
又卒雨

に

入梅

俗ニツユト云又ツイリ文字墜栗花俗ノ本州編目
時珍曰梅雨或作霪雨言其沾衣及物皆生黴也
芒種後逢土為入梅
小暑後逢土為出梅也
小暑後逢土為出梅也
満夕已除又行潦氏朱子曰一
道上無源之水也

小

潢潦

退之文
無根源朝

にほ

湖 又湖海臣附に不てりみ湖照海
在干江州に不れりみと云

にんまひのな

新殿 古語拾遺ニ
にへこれ

贄殿 上字声至
在禁裏

内膳中ニ有別當藏人頭綱大守
及諸国所進御贄云拾芥ニ

にん

庭 又場附にん廷又にん丹羽
尾張郡名人ノ姓ニモ

にふ

丹生 大和名所又洛陽ノ崇天神地祇云又越前郡名
万葉ニこれとてにふのひの乃本にりき

にぬ

新座 俗作ニ倉ニ
武州郡名 にふた

新田 常陸郡名須倭
訓常ニツク云

にいた

仁多 出雲
郡名 小ぬむり

新治 常陸郡名倭
建命東夷征

新治 常陸郡名倭
建命東夷征
新治 常陸郡名倭
建命東夷征
新治 常陸郡名倭
建命東夷征

仁明天皇

五十四代又号ス
深草天皇

にようわん

女院

一条院正暦元年十月梅壘皇太后詮子尼トナリ玉フ東三
条院ト号ス是女院ノ始ナリ又撰家ノ院号ハ圓融院ノ御

にようがう

女房

女声ニヨウハ
ノ假名房

宇兼家ヲ法興院ト
号ス是始ナリ
陽唐ノ字ニメ声バウ五音ナル故ヲト書来ル源氏あり
の卷ニによむる故トアリ附によし女姓

にこう

尼公

禪尼
ナリ

小よひむま

駝

作駝俗にむむま
トモ荷ノ負馬

かえんたき

鶴鶴

にくろがら日本紀又須倭ニ舞舞ノ二字ヲ訓ス世上常
セキレイノ声ヲ呼神代口訣ニハ是ヲいふおほセリトトアリ

にんこ

雞

又庭鳥歌ニトリトナ用ル多此そんぬるこトアリ又々
かけと云伊物ニくかけのまきに啼てトアリ又日本紀ニ

常世長啼鳥ヲ
集トアリ

にほ

鳥

又鶴又鶴異名閑
水鳥ト云或ハかい

例二
つらや或ハカやぐきトモ云附にやれきん一浮巢
水ノ増減ニ順フマラニ巢ヲカクル鳥ナリ

生植 にいざろろ **櫻桃** 別録ニ
又櫻 **小くここ** **接骨木**

にんぢん **人參** 倭訓カニゲクサ又人銜本經ニ又神草別録ニ
又常ノ菜トスル胡蘿蔔トカリ

にやまぎ **篇芸** 草ノ本州ニ
狼毒多識ニ にくけい **肉桂**

にんごう **忍冬** 倭訓スイカヅラ
又す

服器 みもむ **漿** オモエト斗ハたノ順倭ニハにんごい
トアリ古訓ツクリミヅニ

にんぢぢ **二宮大郷良** 正月二日群臣賀又后宮及
東宮ヲ賜其食一美ク

にのみ **新嘗** 年中行事ニ九月十六日天子今年初禰被供ニ神ニヤ
又曰一會以前僧尼重輕服人不可ニ參内云々又云

しづめ相嘗會八十
一月上卯日 **にんぢぢ** **贄果子** 贄菓
子ナリ

あきま **錦織懸** 雲ノヲリ
カクたん にえゆ **熱湯** 一名百
沸湯

にほひ **香囊** 順倭ニ
悱又白袋 にかい **荷茶屋** カツキテ
茶ヲ賣

にべ **鰐膠** 又鰐膠トモ但ニ物クハ魚ニテ目鰐ト
獸ノ皮ヲ以テテチルヲ膠ト云ク

ふよ **如意珠** 梵国ノ
器 にかい **肉苳蓉** 菜ノ
名

雑事 にら **荷** 又擔 にかい **贄** 又賑又豊饒又
富武氏土佐日記ニ

ふえい **呻吟** 俗ニウナル
ト云ク にかい **俄** 又急
又頓

にや **白** 又苜
トモ にかい **如法** 人ノ一ニ
云

にこくわふ 荒爾 いんごう 新枕 戀ノ

小づらとふ 逐北 下字声背凡人逃走則必向北方 暗所而隱身故云又追亡氏

にっくし 似合 源氏ににっくし 上有土佐日記モ にどる 躰 作隣 同

ふんせき 場騎 上字作場俗 馬ノイニ云 にくまへ 斜眼 又白眼

にんごろう 人情 又あんあい にくちろう 入定 佛者

にうと 柔和輓 にエ 牲川 人ノ姓以 下準之

あうげ 新家 附に白 一井 にわご 新田 又にくと

にへた 西尾 又しんが 小いだらう 二階堂

にを 丹羽 熱土師

保変係変は変は又本変平変が 又俗ニ穂変極

乾坤 ほふあひれそ 星會天 七夕也附りあひれそ一濱伊勢一志郡 六帖ノ歌ニあふちハ夏ノそあひれそ風又

かのほ 焰 与燄同作焰俗附りとの煨神代卷ニ或ハほいとのトモ又モ えいのお火燼皆訓ハ相通又やうそマ烽火トヒト訓ス云日野

のこあひれのり トヨメリ かうけら 鳳闕 禁裏

ほふらとじ 法隆寺 法ハ入聲ノ字声ハフ古ヨリカト誤来ル但用所アリ凡例ヲ 可考中ノ字作隆俗一ハ大和国ナリ昔日聖徳

今案以下準之 太子ノ時号ス 伊香留香寺ニ かくむらう 北印 葬所ノ 義

ほりあらし 法性寺 但源氏ヨミニハヤウゴトド 此寺ハ貞信公建立拾芥ニ

ほりえ

掘江

撰州ノ名所仁徳天皇御宇始掘之云歌ニハカリエ
の川ヒヨメリ大和モ同名アリ玉林抄云高市郡豊浦

東羅波

ほりえ

北條

伊豆在名平時
政在所依為氏

かうまう

豊州

作豊声イ
後前マ

ほんぢ

品地

備後
郡名

ほみ

法美

因幡
郡名

ほら

蓬萊

方丈
瀛洲ヲ合

チ三島ト云神仙
境ト云来ル

かぶらう

法皇

天子授禪ノ後祝髪シ玉フヲ云
寛平一ヨリ始ル由

ほり

褒姒

褒国ノ女姒姓ノ故ニ名トス周幽王ノ
嬖妾為烽火笑滅国者ヤ

ほり

法然

源空也姓添間美作ノ国稻岡之人開發浄土専念
宗住黒谷順徳院建曆二年正月廿五日寂ス

かぶし

法師

三論宗ニホツシ
ト云喜撰ト云

かぶし

眸子

七十三
ト訓ス

ほり

臍帯

俗ニ臍
ノ緒

かぶし

頬

声ケラ又ツラ
トモ訓ス或ハ

ほり

ほうり

鳳凰

字書註
雄ニ鳳ト

町ナトノ西ガハ東カハ
ト云時モ此字ヲ用
雌ノ鳳有ニ五采一栖梧桐食竹實云々文集ニ曰一
百鳥王ト歌ニハモロシノ鳥ト讀来ル和訓オホトリ

ほり

校尾螺

本抄ニアリ都テカイト云ハ
以テ介字ヲ訓母トス

ほり

子子蟲

五雜組ニアリ又蛞蝓ノ二字ヲモ用ト云

生植 ぼづえ

齋

万葉ニ舎花枝也トアリ注ほニ委
直ニ我ヲル梅のぼづえに其の

ほう

厚朴

カクガ
氏訓ス

ほう

南瓜

瓜ノ類
本抄ニ

ほぞむら

熟瓜

本州ニ

かわら

蒲黄

カニト訓ス

かだろ

海蘿

又藻トモ

かづづき

山茨菰

鬼灯トモ

服器 **かづ**

帽子

作帽俗りトモ訓ス用所ニヨル頃倭曰兼名苑云帽一名頭衣又加州冠トモ云

ほいおりの

糲

又乾飯トモ

かゝい

臙

作臙俗礼記註曰臙一乾魚也

かづぐ

反故

齊春秋云沈麟士字雲損少清貧也以反故写書数千卷是出所カ

ほい

布衣

或曰狩衣トモ東帯也月ニ

かうお

行器

作器俗又俗ニ外居トカク

ほうか

蓬蒿

矢ノイヲ云

かゝろ

木刀

又木刀ト云

ほうだて

椶

家屋具

かゝお

楯

山中者ホ父ト云

ほうぎやう

寶形

棟上ノ

かづ

棒

又作杵倭訓シモト又ツエ

かうあて

頬當

兵具ヤ

かいろ

焙爐

茶ニ用

ほうちやく

瑤鐸

塔檐隅四辺ニ垂物頌俵ニハ作宝ト注云大鈴也

がう

棚

訓アツキ楊弓射礼ト曰ハ繫格臺ニ中央ニ有小穴是謂喜利穴矢中其穴者称美之ト

雜事

かうれい

法令

作令俗

ほうこう

奉公

附一加

ほうろく

俸祿

訓タニモノ又奉トモ

かうこう

法燈

浮屠喚頭學宗ト云

かうそ

寶祚

作寶室共俗日本紀ニアニツヒツキト訓天子ノ御位ヲ云

ほう

崩

常ニ御ト云諸王ハ薨御ト云三公等ハ薨逝ト云又薨トバカリモ

ほうい

朋友

又友于氏同遊氏云

ほうえ

わやう

吠

又吼

ほうけう

法橋

附わん一印又わげん一服皆僧綱ナリ

ほうごん

房官

門跡ノ候人

ほうごう

法相宗

日本玄昉渡之

俱舎又同之

ほうご

漸開

又微笑社詩素笑梅作

源氏源氏源氏

ほうご

屠

殺く

ほうごう

鬚々

髪毛ノ乱負

ほうご

無本意

古書い用不用

ほうごん

褒貶

作褒同作褒俗專詩歌分是非義ニ用ル尤常ノ詞モ

ほうけい

謀計

一書一判

ほうご

保養

ほうまう

本望

俗作望

ほうご

煩熱

又火熱日本紀

ほうき

蜂起

作蟻同一揆シコルヲ云

ほうご

細

ほうご

程計

又大小トモ日本紀

ほうご

煩惱

作惱俗大智度論曰

一者能令心煩作惱故名一ト云

ほうご

報答

下字声タフ附ワるとん

一恩又々々

ほうご

褒美

作褒同作褒俗

下字从室从天

ほうご

縱逸

又放侈又恣

ほうご

純

糸ナトニ云

ほうご

忘却

俗作忘



吉備公片假名ノ母字及ク空海僧ハ片カナヲ取玉フ
人ノ二字上ニ非ク又遍変る

乾坤へうま

水降作水略

むつげう

別業附るま

むうだん

廟壇作廟垣俗神社

へいちりん

屏重門上字作屏俗

氣形るんせう

遍昭

大綱言良峯孫安世之男宗良之嘉祥元三月廿日天
皇崩之時出家世人曰花山僧正寛平二十二年正月十

九月七十六歳而滅
大和物語良少將上此

るんちやく

扁鵲

春秋之時
良醫也姓

豹

日本紀ナガワカミト訓ス下学集ニ
作彪神回反声ハシヘウハ訓ナリ

生植るいさくく米囊花

ケシノハナ

服器へい

幣

訓ニキデ又神楽ノ採物ニミテグラト訓ス神代巻ニ
あまにきて青和しちりにきて白和し又あま出

るうー

表紙

須俵作標

へうぐ

標具

上字表トモ
附るる

表補繪又なるか急懺補繪又どろろろ多同方繪
又どろろろ多輪方繪但輪ノホソキヲ云真表具トハ佛像用

へを

經緒

鷹ニ用フ俗ヘイシト云又足緒足緒又足組足組云
足緒足組共ニク、リト訓ス言塵集ニ

るうそく

標燭

又兼一氏但此時ハ
ひささくノ假名ナリ

へうらう

俵粮

俵語

るんせん

瓢箪

瓢ト箪ト
ハ二物ク

俗ニ字ノ声ヲ以テ小瓢ノ名トスルハ大ニ誤ク但朗詠集ニ一屢
空草滋顔測之巷ニトアルニヨリテ誤カ直轄之申文心ハ一箪ノ

食一瓢
飲ヲ云

るいど

瓶子
作瓶畧
酒器也

るつゝい

竈

俗ニ云ヘツツイ作竈同
声サウ常ニカトト訓ス

へいれい

平禮

平侍ノ
冠ヲ云

べつふ

敬龜甲

雜事
るのう

別當

辨学院ノ一淳和院ノ一学館院ノ一内監所ノ一内教
坊ノ一内膳ノ一御厨子所ノ一大歌所ノ一樂所ノ一

大學ノ一等ノ是ヲ
カリテ神佛ニモ云

るうわん

苗胤

作胤俗後ノ一
又ヘウイイ裔

るぐゑん

變化

作變俗源氏寄木卷ニ見タリ紹巴云
口上ニハヘンゲトヨムトソ

るぎへはる

耗折

下字日本紀ニハ新羅
国ニ折トアリ

らんやう

返報

一答

るうり

表裏

るつゝふ

諂

又諛又諛
又佞又佞

るうり

漂泊

訓タビヨフ

るうそ

癩疽

指ノ病ナリ
俗代指ヲ云

べうく

渺々

水上ノ
眺望

るいぢう

倍從

此二字ソユルト訓ス
一神樂一參詣

るんやう

辯償

訓ワキニ
ムクニ

るうど

表示

へいこう

平降

一快
一等

るいろ

閉籠

又るいこう
一口



空海以呂波玉字之俗止ノ字ヲ用ハ誤ク四十七字ニ不限一切ノ假名字母皆字声ヲ取
ク訓ノ字トル理ナシ 登変也変也又俗ニ止変ト

乾理

ごうど

冬至

十一月節
ノ名

ごよう

土用

四時ノ末各十八
日ヲ四季共四

こまにばやま

常盤山

山城ノ名所又一し橋ハ江州大名寄ニ又一し里ハ大和国十市郡ノヨシ藻塩草ニ見タリ

こ成さむとの

遠里小野

撰州ノ名所佳吉ニ近シ名所方角ニ又ウラウヤムルニ遠里とのトモヨメリ

氣形

ことうごう

春宮

天子御世継即東宮

こほろのね

融大臣

嵯峨天皇御子号六

条河原院
右書ニシヨクニ

ことうごう

東方朔

仙人也作神異經ト云

ことうば

東坡

蘇軾字子瞻仕宋官至翰林学士能書畫佛釋道一致之見

ことうちうごま

董仲舒

漢孝景帝博士下帷講誦三年不窺園武帝時以賢良對策傳在漢書列傳二十六

こ成はぢや

遠祖

又日本紀止祖トモ

こほろり

左右衛門等ノ外衛シテ御垣守トモ云ク

このめづ

伴造

先代旧事記ニ造祖トアリ古語拾遺ニ勝部ト書テ同訓ナリ歌ニのちこれりるつとヨメリ又た此を國造

このぬい

宿侍

又宿直人トモ

こころぬい

囚人

又ウレ

ことうぢ

杜氏

前板トシムカサシ杜康酒ヲ作り始故ニ酒造者ヲ一ト云都テ物ヲ釀スルエ人ヲコウヂト云類ヲ推テ

ことう

童子

一形

ことう

胴

人躰ナリ或ハ作胸

ことうごう

童坊

義満將軍幼少ノ時異様ノ衣ヲ著シ刀脇刺ヲ帯シ佞坊一ト号メ令近仕ヨリ始又同朋ハ高登及東寺ニテ

カ者ノ
一ツ云

ことうけん

鬪犬

古作鬪唐犬ノ時タラケ

こりあんせ

鬪雞

順徳ニハ鳥鬪ノ二字ヲヨム旧記曰天慶元年三月四日十番ノ一アリ

ことう

鴉

字彙ニ作鴉同作鴉俗声ホウケトウハ訓ハ羽以テ可作矢東国是ヲコキト云順徳ニハヒキ鴉日本紀私記ニ桃花鳥是

こちやう

鮓

本州ニ鮓魚トアリ又泥鮓トカク俗ニ土釘トカク然トモ是ヲ訓母トス前板ニ誤テミデトス

列二

こひうそ

文鯨魚

五音集韻
及篇海ニ

えんぎ

蜻蛉

古書ニ
トモ又カゲ

ろふトモ訓ス異名秋津虫
小ナルヲえんむト云

生指

こまごえぎ

常盤木

俗冬木
ト云

こまきり

冬葵子

用葉

こまごえ

冬瓜

こまがうトモ
カクヲトモ

服器

こちやう

斗帳

神前ノ一ノ作戸帳非ノ須俵註曰小帳ヲ斗
形如覆斗也俗云一一云屏幔

えんぎぎ

屯食

下膳ニ玉フ飯ノ名
又ツミイ井トモ云

このおとれ

宿直衣

作宿俗又このおとれのうろト
云アリ源氏三ヶ傳之内

こぢりまめ

餃

字書曰餠
和豆ニヤ

こぢりまめ

獨參湯

作湯
俗

こまごめ

豆腐

作腐俗漢淮南劉安始作
見本抄附一トク皮字

こまごめ

透頂香

こまごめ

土貢

国々ヨリ
ミラギナト

こまごめ

桐油

須俵ニ曰雨衣也
一云油衣

こまごめ

富尾

冠具又鶏
尾ハ車具

こまごめ

鞆繪

又巴

こまごめ

胴丸

鎧ニ云

こまごめ

通入障子

鳥居
一ト云

名所ニ云時紫震殿後七間
中間障子拾芥ニ

こまごめ

銅壺

壺モ同作壺俗世ニ是ヲ
湯ノ器トス未見本抄

こまごめ

調拍子

調或作土
又調拍子拾芥

こまごめ

投網

俗言又唐
一ハたうわ

こけい

簞 フルヒト云
同事

こさう

斗筭 イカキト訓ス
俗ニ云ザル

こけい

土圭

又俗ニ時計トカリ誤ク古一以テ夏至日ヲ表フ
見日影之立表法ハ周礼ニアリ

こけい

燈籠

順倭ニ作灯俗涅槃經ニ作一爐
本朝式ニ作一櫛是物掛ヲ云

附こけい架

是ハ地ニスルヲ云
ニ才圖繪ニ

こけい

作臺俗ハ本朝式ニ曰
主殿寮一

こけい

械 順倭ニ注曰一
所以居燈臺也

こけい

声ハ
こけい

也但シハ訓ニアラス声ノ変ク凡例ニ云ハ子ク
古書多ハこけいト云順倭及徒然草ニモ

桐君

琴ノ異名
又一系氏

こけい

東京錦

異国ノ
東都ヨ

リ出ル錦ノ源氏
物語ニ出タリ

雑事 **こけい**

捕

こけい氏附鷹ノ鳥ヲトル字ハ捉又搯又摘又粹
皆鷹ニヨリテ替ル但倭国ニ用來ル字ニ傳ニ

こけい

屑 又柄又
クニ出

こけい

抖擻

頭陀
ナリ

こけい

平生

又常住氏又常盤トモ
万葉ニ常不止ノ三字

こけい

宿直

或ハ殿居
トモ

こけい

閉

作閉俗又緘
用所ニヨル

こけい

棟梁

作梁俗其々
ノ長者

こけい

不取敢

こけい

同道

附一各一同行一断一苗一前一理
一然一輩一士討一士軍等

こけい

東堂

神位

こけい

祈年祭

下字作
祭俗於

于禁中ニ有之一
日廢務ナリ

こけい

トク

解

又説用
所ニヨル

こきれゑ

関 又觀波 未考出所 俗関字ヲ用來氏於字書未見其說史記項羽本紀呼聲動天トアリ是トキノエトキコユ然氏書

所ヨリテ其ト聞ヘ難カルベシ又日本紀神代卷ニ雄詔ト書テ才タケヒト訓ス是ヲトキノエトヨム共云リ別ニ不見本證又凱歌ト書ハイヨク誤義不忘

こごほろ 滯 又止凝トモ

こたえ

渡斷 作斷俗又断字バカリミだえト訓ス又間断 氏太平記ハ湍字ヲヨム

ころう

兔角 空海三教指要ニ龜毛兎角ト云有詞是ヨリ出又東鑑ハ左右ニ字又ともかくも取捨日本紀ニ

こあひ

唱 又こあひト訓ス詩經ニ

こきいハ

常石堅石 旧事記及神名帳春日祝詞ニ出又般石ニ字又不節又常盤彼盤ノ四字皆日本紀ニ見タリ

新古賀ニミツキをこゆりがひ 宿養 雁鳥詞也

こいひ

悍 雁鳥詞俗鳥毛ニ字ヲヨメリ言塵集ニ云至ニソムキテこいひヲノキバウツト云又ソレタルヲモのきむサト云馬ノカニ善惡ニモ

此字ヲ用フ 即カニ蓋シ 鳥回 雁鳥ニ云

こいひ

鎮 又終古共又長 又をり氏ヨムをり 遠 云ハナレ氏坂ト書ハ傳アリ

こら此時一近 狀等ヲト、 訪 但生ニ用死ニハ吊ノ字俗ニ吊

ノ三用 調 中ヲ吉ニ作俗ニ用

ころう

登庸 又ゲ用 逗留 下本 字雷

こたう

徒黨 疾々 字各註ニ曰 急ナリト

こたう

通難 附キガテ往一又イ子ガテ寢一又スキガテ過一 又カヘリガテ帰一又難字斗カヘリガテト用タル有

うをふ

追年

附一旨
又一月

ふまひ

伴

こやく

古書ニある不

徹

又通又達日本紀
又洞達同書ニ

こうてん

動轉

又こころ
一静

こきにん

適時

附トキミタ
ガ若一

こうかん

等閑

又み

うしを

年緒

こころ

鎮常

又不久
トモ

こまうさ

東行西行

こびく

届

イタル
トモ

こかへ

十回

年数

こまひ

歴問

日本紀ニ
詞ヲトミ

こうたれ

凍餒

徒然草ニラフハ傳アリ孟子盡心篇ニ
不煖不飽謂之凍餒アリ

えんぢやく

貪著

こをよそ

遙點

上作
遙俗

えんぢやく

貪著

こりま

取弛

こりく

鼓々

又百々トモ
鼓声

こひ

土肥

人ノ姓以
下準之

こり

東

くのう

得能

こきん

常葉

ち

知変知変ち変り
又地変地

乾坤 ちちうせい 長庚星

悪星也史記天官曰一匹布著天此星
見起兵前漢書天文志亦有此文彗星類也

ちよや

除夜

十二月
晦夜

ちらい

地晶

餘地ニ下字
訓アイダ

ちぐらをきぐら 千座置座

稜ノ具ヲ納ル
所ニ中臣稜ニ

ちりうたい

帳内 奥室ナリ
下字ハ一基

ちやう

廳 檢非違使ノ
有別當頭使

ちんのざ

トト云常ニニンドコロト訓ス附ちんざん
ノ官又浮屠焔魔ノト云

陣座

在大内ニ左邊ノハ南殿東日花門内右邊ノハ月花門
内ノ又白馬ノハ春花内南面又縫殿ノハ朔平門北ノ

拾芥ニアリ又ノ場
又歸ノ軍ノ

ちたう

馳道

漢書註曰
天子所行

道也

ちさう

長上

又ノ下遠江
郡名

ちりふ

池鯉鮒 三河
驛家

ちえふ

千枝村

江州ノ
名所也

續古林葉抄云ノ村
ノゆふまて

ちひろ

千尋濱

古書ニ
ちひろ

ニテ所續後撰云ひろれぬのまことぬもトヨルハ紀伊ノ後撰ニ
伊勢の傳れちひろ乃るぬにひろふもトアルハ勿論伊勢ナリ

ちいさ

小縣 信州
郡名

ちらふ

千賀鹽竈

陸
奥

風雅集ニ夏のたらしれちろくノかぬ
只ちらふトモ云委ノ字ニ

氣形 ちごうそんりう 持統天皇

四十代天武帝之后
天智第二皇女也

ちり

仲尼 孔子ノ字
ニノ字委

ちせう

智證

一ノ大師ハ
圓珍ノ姓

和氏讚州ノ人父宅成母佐伯氏空海之甥之住于三井寺
延長五十二年七月廿七日賜大師ノ号云云委ノ秋書ニ

ちやうぎ

張儀

與蘇秦俱事鬼谷先生学見秦惠王爲客卿
説合従連横術乃權愛之士也傳史記載之

附ちりうちやう一良

字子房下邳ノ地上而老神人授一編
書後爲漢高祖之臣封留侯謚文

成 侯 ちやうちらけい一仲景

名機漢長沙之大傅明醫術
有傷寒論非後人之所能及

与劉河間李東垣朱丹溪合而謂醫家之四先生
傳在名醫傳畧醫學入門等之諸書

ちやうりやう

きよし横渠

名載字子厚世大梁人初受業於周子宋
嘉祐二年登進士第大儒也晚年居橫渠

神宗熙寧二年丁巳
先二程而卒

ちやうそく志一即之

元朝之善書
号樗寮

ちやうそくざう博望

仙人之乗槎
窮天河云

鄭玄

字康成所註周易尚書毛詩儀禮記論語
孝經等其外所著有數多又名笺術

地藏

菩薩之ト云又
六道能化云

ちやうらう

長老 禅家云

長明

東鑑卷九鴨社氏人菊太夫一入道法名蓮翁
ト云々四季物語海道記方丈記發心集ヲ作ル

丈

字彙註曰一長老称又鄭云能以法度
長於人曰丈人ト世トカクハ俗字云

ちやうぶせし

長奉送使

右齊宮伊勢下向之時隨奉ト云延喜式曰齊内親
王臨行預定監送使參議一人或頭中納言以下略之

ちやうりやう

女中

字彙三忍与切声也然在ト用來ハ説文尼呂切ニ
シタカフ九ベシ韻鏡ニ於テ古音属欠トキハちやうりやう論云

ちやうも

乳母

日本紀訓云又
めはちやうもに訓

ちやうり

脉

本字脈字彙ニ又
脈縮文ニ又血一

ちやうきん

ト書テ千ノミナ
ト訓ス煩倭ニ

ちやうきやう

畜生

周礼六畜
註獸可畜田

生植 ちやうきん

長春木

ちやうき

地膚子

ハキノ
実云

ちんちやうけ

沉丁花

上字古
作沈

服器 ちやうけん

長絹

東鑑ニハ
作帖絹

ちきん

直綴

ちりねび

帳帷

源氏抄ニ紹巴ノ日夏ハスミシラ
用ニ冬ハ子リヲ用ト

ちりぞん

地黄丸

補ニ左腎方也錢シ字
仲陽組之ヲ

ちんか

沉香

一ト子白檀龍
腦替舎曰五香

ちりぞ

丁子

異名雜古
香

ちりるし

軸表紙

チクトハ箱ノ左ノ方ヲ云ヘウシトハ
箱ノ右ノ方也又軸車ノ具ニモ云

ちりやう

白炭

焼火ニ云
多識ニ

ちりよう

中庸

孔伋作
四書内

ちりか

短刀

東帯色目ニ見タリ注曰小刀之世ニコカタナト云ニヨリ
一ト字ヲ用旧記ニ小刀ト書タル有之由

ちりやう

鍬石

似金ニ真
鍬是也

ちりご

重箱

ちりか

逆靱

又ト靱
トモ

ちりご

柱

琵琶ニ用時云
琴ヲ用時コトナク

ちりま

定規

俗定木ト
書ハ非也

ちりん

打版

或作長板何
モ槌ナル書ニ

出但ニ物カ不知是非ヲ
僧侶ニ可ト尋之ヲ

雑事 ちりやう

打擲

ちりやう

具顯眉顛

下字略メ
作員

ちりだい

頂戴

上字又
作階

ちり

持

勝負ノナキヲ
云ク附リビヤ

一病又ぢぢト佛
又痔ノ病ニモ此カナク

ちりぢ

住持

寺院ノ主ト作
住持非又一侶

又一居又
一人ホ

ちりぬ

除位

旧位ヲ除新
位ニ進ニ義也

ちりく

除目

任諸官云ク天武天皇四年三月始旧官ヲ除新官ヲ
目意カ五雜俎曰今人以此官ヲ為除官ト

別二

大

ちりひそれ 散違陰 下字作隳作陰共ニ俗ニ伊物ニ
ころむろくひそれトアリ

ちりかろ 忠存 附りしや
一賞 ちりぶ 丈夫 ツヨキヲ云
出所未詳

ちりわん 中陰 釈氏語也人死シテ未來生中間ニ色受想行識
五陰ヲ得く或ニ七日乃至七七日修佛事ヲト云

ちりごご 小子 人ノ姓 ちりやう 長 又たり又木ト
訓ノ人姓

り 利変利変りりハ片カナ
又里変マ

乾坤 ちりごごせん 靈就鳥山 天竺釋迦說法之
道場也ト云

ちりちり 領地 ちりけり 梁橋 訓をりり
神代口訣ニ

氣形 ちりごご 龍猛 又一樹 甘露薩トモ真言
家ニ所尊くト云

ちりかい 梁楷 宋朝ノ
各工ク ちりげりふ 季堯夫 佛像ノ
各工ク

ちりごごり 兩虎鳥 附めりごごり合虎鳥共鷹鳥ニ云
但口傳アリ

生植 ちりごごり 林檎 但是ハ頰倭ノ訓ナリ俗ニリゴト云
文字ハ本州ニモ見タリ

ちりたん 龍膽 無假名使徒然草ニハアんだぐトアリ枕草子ニハア
たんトアリ又古今物名ニ我やこれ花をとり原よりん

服器 ちりごご 靈供 作霧同浮
層ニ云 ちりなろ 六韜 兵書七書
其一ク

ちりなろ 龍腦 葉ノ名蕨敬本州注ニ曰一香者
樹根中ノ乾脂也ト

アムウキウ

良薑

葉名下作
姜ハ声ウカレ

アムガウ

輪寶

佛者之
器也

雜事

アムウキウ

領掌

俗作
領

アムウキウ

兩方

リウマウ
氏ヨミ来ル

是ハ僧ノヨミ
ナラズ

リツウキウ

律令

リキウ

利生

神佛ニ
云

アムウキウ

兩部習合

音ラ
神佛ニ
致シ云

アコウ

利口

惡ク之覆邦
家者論吾ニ

アムウキウ

理不盡

人名李夫
人ニモ

リウアム

諒闇

一、諒陰也日本紀ニみちりハト訓ス論語註ニ
朱子曰諒陰ハ天子居喪ニ名不詳ニ其義ヲ

アムウキウ

臨終

附アムド
一時

アムウキウ

輪回

浮屠
云

ぬ

奴又怒變也

乾坤

ぬひのぢん

縫殿陣

朔平門ノ
北ニアリ

氣形

ぬえ

鶴

近衛院ノ御宇源賴政射之云字書曰音夜鳥名山海經ニ
單張之山有鳥焉其狀如雉而文首白翼黃足名曰白

鶴一是賴政所射トハ各別也ナリユエ又ニ
似タリト云時ハ化鳥如何ト名ツケガタシ

ぬづきむ

叩頭蟲

枕草子ニぬづきり又
あくれむ

生植

ぬるん

蓴

水草也モロコシ具江ノ名物晉張翰カ子ガフ所ノモノ
也歌ニ大方蓴ぬるん又々きぬるんナトヨナリ又えくと訓ス

常ニ声ヲ用テシユニサイト
云文字一菜

服器

ぬさあへ

饅和

附一繪

ぬのいきん

布引延

ぬりごめごう 塗籠藤云

ぬのまか

徒然草ノ傳ナル故
文字不書

ぬいむれ

繡

頌倭曰蔣勳切韻云一以五色絲刺万物形也但訓
ぬむむれトアリ今ノ又ヒク附ぬいり紵又ぬい縫

雜事 ぬきんず 抽

又抄

ぬりげく

額突

又頓首トモ
又替首ト書

テをほろこぬづくト訓ス詩經ニ又頌倭ニ
礼祥ノニ字ヲぬりげくト訓ス

ぬいごめか

縫殿頭

中務ノ被官相當
從五位上職原ニ

ぬるり

温

詩經ニマハラカト訓ス一氣ト書テ炎暑ノ義ニ非ス春
温夏熱秋冷冬寒ナリ然レ礼記月令季夏ノ所ニ温風始
至トアリ因之トキハルシカラ子氏
常ニ宜シカラヌナリ作温俗字

留

留愛返る変る変う又流 変化
又累変更変更

るすぬ

留守居

ぼらう

流浪

或作涼

るいえず

類葉

作類俗下字声ヨク然レ
ネト書来ル喉音ニメ

を

遠変遠変をををを
又越変越変化

乾坤 をにび

燐

頌倭云人及牛馬死而血所化也
又是ラキツ子ト訓ス

をさめ

微雨

又小雨

とひくせ

追風

背風ノ
又ハ駿馬

ノ異名ト土佐日記ニをひくせと云
何れゆゑの是ハ頌風ナリ

をわさきあめ

無小止雨

源重之善ぬれそゆあり
ろのよわみせれ

ときび

爐火

炉ニ置火之古今物ノ名をきひん時やそころにん又たきび
爐字之是ハ起ル火之同物ノ名ノ部ニ與井都島たきれわ

てるとおくよりり有
古書をきのし書り誤

をり

岡

作岡俗作罌非
又五凌同訓ナリ

古歌ニ越し松一節一本一崎又長一
舟一片一乃一神樂一彼一寺

をのしちま海

碓敷盧島

又自凝島庄又自凝洲庄是古訣アリ日本紀神
代卷云ニ神立天浮橋之上計日底下豈無

国吹廻以天之瓊矛指下而探之是獲滄溟其矛鋒滴瀝
之潮凝成島名之曰一凡松一六所最澄比

敷ヲ實ナリ
ト云リ

をらんた

阿蘭陀

臺國ノ名
或作羅施

をくき

愛宕

山城郡各郡ノ内ニ山アリあつてト云文字一之訓モ亦五音
相通テ一拾芥ニ葛野郡トアリ今丹波栗本郡ト云

何是カ未詳アタマ天忘年中慶俊法師安直地藏ト云檀那和氣
清麻呂ト云愛宕寺建仁年中創スル由跡ナリ拾芥ニハリ護

日記ニ愛太子トアリ古王
仁ヲ葬スル所ト云

とびえ

小比叡

叡叡二字共ニ
俗山門ニ在又ハ

とこ免づ

乙女塚

下字非く正字家在撰津古事大和物語ニ委世ニヒコウツト
云云ニヒコウツト云云ニヒコウツト云云ニヒコウツト

前ノ濱ノ辺ニ
アリト

をり

牡鹿

陸奥
郡名

とんちやうじ

園城寺

古ハ三井寺ト云テ無遠城号開山
智證大師之天津宮ノ建立ト云云又云

をきれん

隱岐國

日本紀ニ作億岐古事記ニ作隱伎此国
在伯耆出雲石見寺之沖故名ト云

をふてかりて

追手搦手

大手ノ時
杉ノて

をらえん

乙縁

家屋ニ
云

とが

遠賀

筑前郡名又神名帳ニ云
出羽国一ノ神ノ社

をらふ

遠敷 若狭郡名

やぶら

忍海 大和郡名之

をかし

雄勝 出羽郡名

附とれやまー山

紀州名所

をこたさ

一琴ヶ里

備中名所或云 近江ノ名所

小野

下字与楚同一ノ三ヶ所古今ニあざりふれをのこれり山城又新キニ一ノ御牧ひたりあるものみまき此處まのトヨメルハ常陸之金葉ニイセのゆれをのこれりトイハル伊勢之又一ノ奥ト云ハ山城ノ内若洲ノ境也足軒白俊著れをのこ名所ニ非ス都テ野ヲハ小野トヨム歌多シト

附をこらせー初瀬

万葉ニハ小長瀬又伯瀬ト云セト

斗モ云三輪ノ山ニツクトイハレ其間ニ里アリ

をど海ノ島

陸奥名所 又雄嶋ト書

をこら

一鹽

山城名所又同字ニテとに不越前ノ名所ありひきとにはれ浦のこををにそゆまはの月とんとシホヲニ味拘音ニ

通ス又をーほかりー井伊勢ニアリ或忍徳井氏書太神宮ノ御饗ニ用ル水ナリ風雅集ニをー井井とけあみゆまくとそりくトアリ

をぐらや月ー倉山

山城名所古書ニ藏氏後拾遺詞書ニ雄倉氏ー野ーレ里ーレ嶺皆

一所ノ葛野郡ニアリ又小倉山 葉定家卿晚年ノ住居ト

とぐらもー栗栖

作栖俗ナリ 山城ニアリ

をこらー忌浦

又嗚呼氏万葉ニハ鳥咩トアリ伊勢ノ名所玉葉ニをこれり日れふひさ

よのほの又万葉ニをこれ浦に あはつしんをこら

をはたれやー銀宮

摂州名所

續古ニ土御門院をこられ名のあふむん又大和ニモアリ昨をこ首をこられのゆに田れ核のりつに

ろさきー黒崎

陸奥名所をこらさきとの 小島の人あは

をいふれき

音無瀧

比叡山下小野ト云所ナリ古あいなふて
いふまゝナル地也とあるをいふのたき

附

とくろくくー川

紀伊ノ名所又是モ
ヲトナシノ瀧アリ

をいふれ

たきー羽瀧

又乙輪瀧氏洛陽ノ清水ニ在ー山
一川一里皆マニナリ

をいふれ

やまー高山

江州ノ
名所

をいふれ

大和十市郡
ニアリ文字

草創也畧記ニ

をいふれ

置賜

出羽
郡名

越智

伊与郡名又同訓ニ穩地ハ
隱岐国ニアリ

熊籠

古ハ王城ヨリ西方ツート云東方ツエニ蝦夷ト云取テ
定ル所ナシ後ニ定ル日本紀景行ノ記見タリ

緒捨山

紀伊
名所

をいふれ

銃石川

能登
各所

をいふれ

瘵小路

在洛陽上
宇又作押

をいふれ

温泉

伊与郡名
作温俗

をいふれ

姨棄山

信州更級郡ノ名所大和物語ニ委ク古事アリ又一レ
峯ハ大和吉野郡ニアリ山家集ニ西行をいふとハ云ふれ

緒絶橋

陸奥名所初撰名所抄并ニ藻塩草等ニ見タリ八雲御
抄ニ筑前トアリ又ニだえれー氏後拾遺ニあやうーニ

をいふれ

緒絶橋

陸奥名所初撰名所抄并ニ藻塩草等ニ見タリ八雲御
抄ニ筑前トアリ又ニだえれー氏後拾遺ニあやうーニ

をいふれ

をいふれ

地神二代之又忍穂根尊トモ又口訣ニハ
天大耳氏又勝連月氏アリ

をいふれ

置瀬尊

地神第三壇々杵尊別号神代口訣ニ先代
旧事本紀ニ天照国照彦天火明櫛玉饒速日尊氏

をいふれ

應神天皇

神ノ御一之此御宇ニ召博士於百濟傳經史太
崇言田天皇氏旧事紀ニ品田一トアリ即八幡太

子以下各習字ス之本
朝經字之始也

をりひめ

織女
七タノ
又たニ

をうす此こせ
小碓命

一日本武ノ字之景行天皇ノ次子仲哀天皇ノ父也
年二十歳ニテ薨ス旧事本紀ヲ考レハ四十七歳ニコト
薨後ヨリ仲哀降誕ニテ星霜三十八年尤以テ
不審之讚州白鳥ノ明神ハ即此靈也

をくち

小男

旧事記ニ

とれこ

今案モほのこ

巨子

土佐日記ニ云淡
路嶋ノ一

とこむとめ

少女

乙女ナリ
日本紀ニ

をち

伯父

又叔父俗ニ云
父方ハ伯父ト

書母方ハ叔父ト書トハ非也伯父ハ父ノ兄叔父ハ
父ノ弟也母方ハ伯舅叔舅ト書ナリ

をむ

伯母

源氏物語等ニ大方ニトアリ誤レ口傳ニ但シバハ叔母トモ
伯母トモ叔母ハ父ノ姉妹之母方ハ從母氏姨母氏トモ書ク

とこつね

兄弟

姉妹氏此假名少キ傳アリ又兄弟ヲ
とつねト云文字曲背輩又同腹トモ

をうことぢ

痘小路

在洛陽上
字又作押

とれこ

温泉

伊予郡
伊予郡

をむすや

姨棄山

信別更級郡ノ名所大和物語ニ委ク古
峯ハ大和吉野郡ニアリ山家集ニ西行をむすやト云ル此

とだえは

緒絶橋

陸奥名所勅撰名所抄并ニ藻塩草等ニ見タリ八雲御
抄ニ筑前トアリ又とだえはト云ル後拾遺ニあやト云

をきむしこせ
忍穂耳尊

地神ニ代々又忍穂根尊トモ又口訣ニハ
天大耳氏又勝連月氏アリ

をきむしこせ
置瀬尊

地神第三壇々杵尊別号神代口訣ニ先代
旧事本紀ニ天照因照彦天火明櫛玉饒速日尊氏

をきむしこせ
應神天皇

譽言田天皇氏旧事紀ニ品田トアリ即八幡太
神ノ御一之此御宇ニ召博士於百濟傳經史太

氣形

子以下各習字ス之是本
朝經字之始也

をりひめ

織女 七タノ
又たニ

をうす此こせ
小碓命

一日本武ノ字之景行天皇ノ次子仲哀天皇ノ父之
年三十歳ニテ薨ス旧事本紀ヲ考レハ四十七歳ミコト

薨後ヨリ仲哀降誕ニテ星霜三十八年尤以テ
不審之讚州白鳥ノ明神ハ即此靈也

をくち

小男

旧事記ニ

とれこ

今案モほのと

巨子

土佐日記ニ云淡
路嶋ノ一

とこむせめ

少女

乙女ナリ
日本紀ニ

をぢ

伯父

又叔父俗ニ云
父方ハ伯父ト

書母方ハ叔父ト書トハ非之伯父ハ父ノ兄叔父ハ
父ノ弟也母方ハ伯舅叔舅ト書ナリ

をむ

伯母

源氏物語等ニ大方たむトアリ誤之口傳ニ但ジバハ叔母トモ
伯母トモ叔母ハ父ノ姉妹之母方ハ從母氏姨母氏トモ書之

とこつね

兄弟

姉妹氏此假名少キ傳アリ又兄弟ヲ
とつねト云文字曲言輩又同腹トモ

をころ

弟

古今集雜部詞書ニこれをころと
してりけるふトアリ

をい

甥

声セイ又サヲ
附りい姪

をのこ

郎

作又男
オトコト時ニ

をち

乳母

又母異訓メ
ノト又ウバ氏

をねこまち

小野小町

父異説
アリニ

光院御説ニ出羽郡司當隆之女ト云々仁明ノ
時人又承和比トモ老妻ノハ玉造ト云書ニ委

をふかぢり子
凡河内躬恒

日本紀ニ云しらくら旧事紀ニハをくちトアリ
甲斐權少目良高之子延喜之時人任丹波權

をいもあじ
凡垣下主

源氏物
語ニアリ

大目後住
淡路掾
同異本ニハちり
りこあつど

をんぢし

陰陽師

作陰陽
俗ニ

をせめ

乙女

童女氏又美人氏日本紀ニ又小女注ニ五六歳ヲ云河内本ノ源
氏ニハ未通女ト三字ニカケリ万葉ニ云とら氏幼婦トカケリ

とこよめ

娉婦 礼記内則ニハ介婦ニ字又たねよめヲハ
同書ニ家婦トアリ

をこな

姫婦 日本紀ニ
常ニヒメト云

女 古ハとにまこ今ハム
バ子ニメヲシナト云

とよび

小指 頰倭ニ指ノ一字ヲ訓ス伊物ニ
をよびれりトアリ

女見土佐日記ニ
みんでき

怨敵 作敵俗附云
ミツク一靈

をこりむら

下腹 妾ノ子
ヲ云

内舍人

とに

鬼 人神ト書テモ又魔字斗モヲト訓ス頰倭ノ註ニ鬼物ハ隱
而不顯形故俗呼隱トアリ是ヲ以テ訓也又右今序ニ
めたみくねなるとトアリ然ハ誤之源氏手習ニあるまじき事
とだぬのわめやトアリ是モホハアマコリト

とこはもの

嗚呼者 嗚呼者共伊勢物語ニ
をこにありぬトアリ

をぐ

麋 又牡鹿
トモ

とそむま

鴛

とこ

烏兔 楚人呼テ虎曰一ト俗猫ノトス
下学集ニ作於兔ニ未詳

をぐ

獺 山一川一又
水狗ト云

をけもの

牡 けもの
牝ノ字

とめたふちう

膾炙 又海豚魚ト云俱ニ倭訓ニ本州ニ言膾
不著其肉依之世人一膾ト云

を

鴛鴦 此字ヲ書来シト常ノ大ナルハ鴛鴦トカキ
小ナルモノヲ一トカクベキト

とこ

囧 鳥ノ媒又是ヲ
てれト訓ス頰倭ニ

をんごり

雄 古ハハ子ズニをこ
アト云囧ノ訓ニ

繪故今ハ子テ用めとノ時モと清輔朝臣與儀抄ニ云足引ノ
山鳥ノシトアルハ尾ニアラズ雄ノ雄鳥ノミダリ尾ト云トゾ然者ニ多此

そのト可書し又あざりたのト云時ハ勿論也又山鳥ノヲノカミト云
時れハ文字翟雉尾鏡又万葉ニシロノハワヲトアハ六下ハナリ
文字雄呂初尾トアリ同書ニ雄息初尾
トアリ皆山鳥ノ事ニ云リ

とこド

鱧魚 本州ニ不見此魚倭俗
山神ヲニワルニ用

生植 とうだるまき

岡玉木 万葉集ニアリ古今物名ニあはれりたぬ此きり
みづらんニ一説々多思秘抄ニ落著アレハかみくさ
あににげり花ヲセリ
まらたぬ此木古今傳ク

をうけりト

茵芋 又マニラジ
ト訓ス

をげ

白朮 作朮俗又一餅ト云ハ五條ノ
天神ニアルト古事アリ

とごろ

棘 作藤同カラタキト訓スむらトカキタレ古例アリ俊成
まのやうにむられり乃むらぬ附をまの髪

をこまへト

女郎花 万葉ニハ女倍艾トニ字ニアリ依之ニハ時ヲナク不
審ナシ古今物名ニハまをばと云々トアリ

をざ

小篠 又をさろト
ト原 とうごりき 符菴 順倭ニ

とろむい

稻 ヒツキト訓ス二度生ノ稻ハ順倭ニハ穠字訓ハまらむ
トアリ何モヒツキノト古今愈々其良行ありつら此後

をい

遅稻 又晚稻トモ
わくてノ時

にあらハ
トアリ
たの俊成ト云ハ
山田をい絲ト云

をい

貫衆 本州ニ

をい

醜女草 俗ニ鬼志許草ト書万葉ニ醜女ト書テ云ト
ヨメリ哥ニいれま我下ひよにつきなれ鬼此也

をい

川芎 綱目ニ草
呼テ葉名ス

とくさ

玄參 順倭ニ引ニ本州ヲ
呼声葉ノ名トス

服器 とい

小忌衣 節會之時舞人著之或ハ一袖氏ヨメリト
白布ヲ山藍ニテカカ木ヲスル之大方符衣ゴトシ

をぎち

蹟 作蹟俗幽深難見也易曰聖人有以テ見天地之レヲ

をぎる

抑 押折也

をよ

よひ

追

又逐キハテト云時木

附

をいさるー遠をひさるー捲

をびやん

却排 又替

をろつる

をそふ

襲

敵ニソソハル又邪氣ニソソ

ハルハ魔字又異字をびえに訓ス源氏ナトニ大方たうくらトカケリ今用カタシ

をくび

躍

又踊又是シ歌舞ノ名トスシトリヲオドルト云時木

をくび

噎

又噎

をく

嘔吐

病ノ名ノ

をたげび

瘖

不言ノ病ノ訓母音止ノ順倭ニ瘖瘖ノ二字ト云トヨメリ

をたげび

雄詰

日本紀ニ

とにやらひ

追儼

十二月晦日ノ夜行ハル

慶雲二年十二月始ク異朝ニテハ己ニ久ク周礼方相氏ノ職又礼記及論語ニモ出タリ又カトツニモ出

をきて

掟

陟猛切揮張也

をる

カ

居

作屈同又坐字同訓ヲリト云

時木ト用モアリ又カトツニ出

とのれ

己

作己俗又俗ニ中略シテとセト云

凡イコシキノ四字アリトイハ字彙ヲ考ルニ三字ク己音コ身ク又音キツチノト也己音イ呂ト同字訓マム己音シ訓ミ支干

附をれがー之をのつろ

自

又み

をろし

織部

唐名織染署正令史有職原

をろひ

一昨日

又前日又五三彼津日

をろし

去々年

又前年

をこた

懈怠

又惰又たむト訓ス

をいいて
をめて用

於
をきよく拘音ニ通ニ依テイ井キ一之又同訓ニ置古今ヲ
流此行ての山田かりそめには是ハオクテ專ナル故木之又干又

故又處同訓之但用ハヨル然ルニ世上皆木之ト用フ其傳ヲ聞ニ奧
木ノ時下ハ木中をノ時下ハハト書トハ俱ニ非ニ近ク其証アリ百人
一首ニ鶴のついでる移よとく我の又をきゆくハセウ白菊花又ちさ
アをきよくさるる流をいのちにく如此ノ古例ニテヲ用且又口傳アリ

をぬきさげぶ

呼叫
又喚叫用ニワメク用訓ス
又喚ヲメク用ウメク用訓ス

ととる

劣
又減古書ニ
木ノ用

をぎるふ

補
字彙ニ補綴
衣也ト註ス

をころ

右書ニたろ用

終
又畢又卒又薨俱同訓人ノ死ヲ一ト云ハ君子
ノ上ナラデハ不用礼記ニ出タリ又つニ

とーとる

推量
又一料
トモ

とりご

越度

をめる

古書ニたろ不用

憶
又志ををうて用ヲメハ一面ノ略トキユ又阿容ト
書テシメトト訓ス盛衰記見タリ

とよぶ

をよび

及
又單古書ニハハ
不詳オヨスハ木之

をく

教
各養ト書テ
トモト訓ス

をころへ

とろふ

表
古書ニたろハ不
詳此類能可味

とらり

百千度

又一遍
トモ

とろれ

嘔歌説

をよぐ

泳

又游

をそー

遅
又晚同訓又
又カルト訓ス

とろまる

爲遅

又遅字ナ斗
モ又延引

世ニ遅成トカリハ
俗ナリ

をろく

愚

とろせ

恐

作恐俗又怖又畏皆同訓オソロシト訓スル時ハ木之古今ノ序
ニハ木之トアリ又をのく懼戰用又木之とをのく懼恐木

をノ差別能可味
又又木ニ

とこま

行

又テダト訓ス
此字訓多シ

をこ

音

風一雨一瀧一川一浪一
水一杏一撥一瓜一等

附をくづし一信

をにこり

鬼取

俗語其義ヲ尋ルニ佛在世ノ時鬼子ノ多膳上ノ生飯

ヲ食シメ玉フ故事アリ今モ僧ノスルノ生飯ノ字唐音
ニヨツテサシバトヨム畧ノサバト云彼サバヲ取ト云是ク鬼子ノ多ニ飯
ヲトルヲ以テと云りトハ云平論語侍食於君君祭先飯トアリ
註ニ祭謂祭先代始為飲食之人ト云云古代君膳上ニテ品味ヲトリ
前代初テ飲食ヲ作ル人ニナルノ礼アリ鬼子ノ多ニハ心カハシ膳上
ニテ祭ルノハ似タリ今ノをにこりノ隔別ノ一ノ秦ノ時置尚食堂進
膳先嘗之本朝内膳是ク當時武家膳番ハ内膳ニ似リ但無自嘗試
使入嘗之側而看察之をにこりノ
説ニ似テ其ノハルカニ相違ナルトク

をこせたる

贈

土佐日記講師物酒ヲコセタリ歌ノ詞書ニモ丈シコセタルニト有
昔家ノ歌ニちあはれ白いをこせよヲコスコス皆五音相通ス

をこぼる

誘

源氏ニモ出タリ人
ヲコシラユルトク

をりそ

越訴

をきいびた

偽出

人ヲダシヌク
トモ

をいひむ

擴

をいふて

何不別

押並
トモ

をくてう

億兆

上六十万下八十
億只多ト云義

をいふつ

脱離

又と云いけトハ
排分ノ日本紀ニ

をいれり

没在

をうみ

麻績

人ノ姓以下
準之

をやけ

小家

をうこ

臣

日本紀
ニモ

をさう

忍坂

をいこ

凡海

或ハ忍ノ用訓ハをのうニモ
又をいあま用ルナリ

をいたる

押壘

をいり

乙石

をいたる

押壘

をんぢ

恩智

をんぢ

小治田

附をがさー笠をくさくさー原をさりー粟

例二
例三

をづゝ一藩とくに一國をまゝ一侯とら
一梶をこぎり一田切をく一海一島とら
一代をて一手等也

をこへ

乙部

とち

越智

とけとつき

小槻

をうこ

石生

倭字古今通例全書卷二終

